

ご挨拶

「江刺寄席」未広りの八回目でございます。シーズン2も半ばとなりました。素人プロデューサーの私も、そろそろこの仕事に慣れていい頃なのですが、未だ門前を掃くのがやっとの有様です。

まずは立川志の八さんです。テンポのいい明るい語り口が魅力です。いかにも今風の青年ですが、落語について語り始めたらその熱さは半端なものではありません。古典、新作をバランスよく行き来しています。

続いては三遊亭兼好師匠です。第五回「江刺寄席」では「猫の災難」を聞かせてくださいました。二十八歳で入門という遅いスタートの師匠ですが、あっという間に頭角を現しました。社会人時代に落語への思いをじっと育ててきたのでしょう。お馴染みの登場人物を深く掘り下げ、血の通った兼好ワールドの住人にしてしまう絶妙の話藝をお楽しみください。

仲入り後の登場はご当地出身の桂枝太郎師匠です。七年ぶりの出演で、二ツ目の花丸時代には「時蕎麦」を演じてくださいました。落語以外にも活躍の場を広げているのは皆さまもご存知でしょう。最近では自作の新作落語に比重を置いているようですが、久しぶりの「江刺寄席」ではどちらを聞かせてくれるのでしょうか。

膝代わりは俗曲の松山うめ吉さんです。自ら結った日本髪と、セピア色の写真が似合う面立ちを目にした瞬間、さらホールは黒板塀に囲まれた静かなお座敷に変わります。艶やかな唄と踊りを堪能してください。

トリは古今亭菊之丞師匠です。歌舞伎役者のような、と形容されることの多い師匠ですが、私の初印象は落語の世界から抜け出してきたような、でした。「酢豆腐」の若旦那はこんな人だったのだらうと思っていると、それを見越していたように「酢豆腐」が始まったのですから驚いたのなんのって……。その「酢豆腐」、絶品でした。「一口に限る」のではなく、何度も食したくなり、師匠の高座を追いかけたものです。歯切れのいい語り口に浸っていると、鯨背な若い衆や長屋の住人が師匠の姿に重なって見えてきます。

今回の「江刺寄席」には東京落語のすべての会派を揃えてみました。弟子は師匠を慕って入門するのですが、必ずしも藝風が似るわけではありません。ましてや会派で括ることなどに意味はないのかもしれませんが、それぞれに歴史を背負っているわけですから、味わいに微妙な違いはあるはずです。そんなところも楽しんでいただけたなら、面白さが倍加するかもしれません。

「江刺寄席」席亭 **川島一義**

出演者プロフィール



ここんてい きくのびょう
古今亭 菊之丞

昭和47年10月7日生まれ
東京都渋谷区出身
落語協会所属

平成3年5月 古今亭円菊に入門
平成6年11月 二ツ目に昇進
平成15年9月 真打昇進
平成24年度芸術選奨新人賞(大衆芸能部門)受賞



さんゆうてい けんこう
三遊亭 兼好

昭和45年1月11日生まれ
福島県会津若松市出身
五代目円楽一門会所属

平成10年8月 三遊亭好楽に入門
前座名は好作
平成14年3月 二ツ目に昇進
好二郎に改名
平成20年9月 真打昇進
兼好に改名



かつら えだたろう
桂枝太郎

昭和52年8月28日生まれ
岩手県奥州市出身
落語芸術協会所属

平成8年6月 桂歌丸に入門
前座名は歌市
平成12年6月 二ツ目に昇進
花丸に改名
平成21年5月 真打昇進 三代目桂枝太郎を襲名



たてかわ し はち
立川 志の八

昭和49年5月24日生まれ
神奈川県横浜市出身
落語立川流所属

平成12年5月 立川志の輔に入門
平成21年2月 二ツ目に昇進



ひやま きち
松山 うめ吉

岡山県倉敷市出身
落語芸術協会所属

平成3年4月 国立劇場寄席囃子第8期研修生となる
平成5年4月 落語芸術協会におはやし連として入会
平成8年 松山さくらに端唄・俗曲を師事
平成11年2月 松山うめ吉として色物に転向 前座となる
平成13年2月 前座修行を終え色物として一本立ちする
「明治大正はやり唄」など多数のCDをリリースしている